

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年2月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4570300451		
法人名	社会福祉法人みのり会		
事業所名	グループホームみのり園		
所在地	宮崎県延岡市岡元町5 1 5 番地 4 (電 話) 0982-38-0340		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番2 2号		
訪問調査日	平成21年1月29日	評価確定日	平成21年2月27日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは高台にあり、静かで下方の河川や遠方の山々を見ることができる。法人の事業所が順次開設される中、ホームの開設は遅く最も奥に位置する。緊急避難時の導線上、ホーム外職員の支援が必要なこともあり、災害訓練は毎月実施され、自動拡声火災報知器の完備や、応援体制がシステム化されている。法人の職員一人ひとりが笑顔で優しく対応されており、全員で目的や理念が共有され、多くの研修時間を確保しながら質の高い介護を目指していることがうかがわれる。

【重点項目への取組状況】

【情報提供票より】 (平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成11年12月26日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤5人, 非常勤2人, 常勤換算5.75人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,380 円		

(4) 利用者の概要(平成20年12月1日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	0	要介護2	1
要介護3	4	要介護4	2
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 88歳	最低 77歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤本内科小児科医院
---------	-----------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では改善課題はなく、職員一人ひとりの暖かく優しさに満ちた取り組みが行われている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	外部評価は、職員研修、運営推進会議で報告され、自己評価はホームの職員全員でミーティングを行い作成されている。評価に対する職員の意識は高く業務に生かされている
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	2か月ごとに開催され、内容はホーム側の報告が主になっている。会議次第はあるが会議録が残されていないため、討議内容及び、ホームの運営に反映されているか評価が十分できなかった。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	職員の一人ひとりが、家族の来訪や電話のつど、家族の意見や苦情を引き出せるように対応されている。その他、苦情・相談対応に法人の窓口と相談箱が設置され、事案発生時には迅速に対応し改善する仕組みがあるが、家族からの苦情はない状況である。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	ホームの設置場所や利用者の高齢と介護度により、ホーム単独の地域との交流は少ないが、法人と地区で共催する夏祭りやレクリエーションには地域住民の参加が多く、利用者も参加して交流に努めている。外出中に地域の高齢者のグラウンドゴルフの見学などが検討されている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人の能力に応じた生きがいのある生活と在宅復帰を目指した自立支援、地域の信頼と安心に基づき、人権を尊重したサービスの提供を理念とした、「安心、安全、笑顔、満足」を普段の業務として、文章化されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は、研修会やミーティングを通して、理念の共有と実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム単独の地域との交流は少ないが、法人与地区で共催する夏祭りやレクリエーションには地域住民の参加が多く、利用者も参加して交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は、運営者、管理者、職員が理解しており、職員全員でミーティングを行い自己評価を作成している。業務には外部評価が生かされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催されている。主に事業実績報告、行事計画、外部評価結果等ホームからの報告が多いとのことである。20年度は会議録がなかった。	○	会議の記録は2年間保存が必要である。地域密着型サービスとして、地区行事に参加する等地域との交流が望まれる。現委員に地区自治会や高齢者会代表等を加えることや、会議資料を事前提供し双方向的な活発な会議となるよう検討していただきたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームに係る介護保険法の解釈や運用等、相談、指導を受ける関係もスムーズであり、連携を密にした取り組みが行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の状況は面会や電話で報告されている。ケアカンファレンスには、家族の参加を求め、きめ細かな情報が提供されている。介護負担金や預かり金などの金銭管理は、法人が管理料を徴収し毎月報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、機会あるごとに、家族には要望や意見の有無を問いかけているが、特筆することはほとんど無い状況である。職員はささいなことであっても家族からの意見等には傾聴し、実現に向けることを共通理解している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職に伴う異動など、最小限に抑えられている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全職員の1人当たりの研修時間を年72時間以上を必須とし、内・外研修に参加できる配置や勤務態勢がシステム化されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の情報交換がサービスに反映されている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用間近な利用者には、声かけや寄り添いを密に心がけている。家族の来訪で不安がふっしょくできそうな利用者には、家族に協力を依頼する等、個々の対応が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に教えてもらった、菜園の大根を寒干しや沢庵漬けにし、食事に供して話題を広げたり、バスマットを縫ってもらう等、共に学びあって信頼関係に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族との時間を十分かけた会話から、一人ひとりの意向の把握に努めている。試行的に1事例についてセンター方式を導入したあと、更に対象事例を増やす方向で検討されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を導入した事例を法人内研修で発表し、徐々に導入を検討する意識が見られる。個々のアセスメントに応じた目標設定に対し、全員でモニタリング、カンファレンスを行い、介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者全員について、6か月ごとに見直しが行われている。利用者、家族の参加の他、必要時は法人内の栄養士や看護師も加わり、ケアチェック表を基に、具体的なカンファレンスが行なわれている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	食事は複式献立からの選択制や、ホームの活動費を活用した誕生会や外食等、変化を楽しむ仕組みがある。ふるさと訪問と称する自宅や市内景勝地ドライブ、職員による頭髪の整容が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族では受診困難な利用者の受診支援も行われているが、同意の下で、協力医によるホーム内診療が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人内施設も充実しており、終末期については本人や家族の希望を尊重する方針が、入居契約時から、説明されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	丁寧な言葉かけや、名前での呼びかけが日常行われている。構造上、2部屋ずつの共有トイレのため、センサーライトで使用中がわかるように工夫されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各食事後は、いったん自室で過ごし落ち着いた後に、その日の過ごし方を話し合いながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	以前ほどの調理や片づけへの参加は少なくなったが、漬物作りやごぼうのさがき等と一緒に参加されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	健康観察後に毎日、介護度に応じて見守りや入浴介助がおこなわれ、1日ずつのゆっくりとした入浴ができています。入浴剤を利用した温泉気分で楽しんでいただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族や本人からの生活歴を把握して、裁縫や畑仕事、漬物作りなどに誇りを持って、行っているよう支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内の散歩やミニドライブ等で外出が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	デイサービス利用者や家族が、いつでも気軽に訪問できるように鍵はかけず開放的である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回、法人全体及び各施設ごとでも避難訓練が行われ、避難経路、防災や応援体制がシステム化されている。自動拡声装置の火災警報器やスプリンクラーが設置されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内栄養士により、共通の献立と食材の一括購入がされ、調理はホームにて行われている。摂取量記録がされ水分摂取にも配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには花が生けられ、利用者の製作物が壁に飾られている。不快な臭気、音もなく、居心地よく過ごされていることがうかがえる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の希望や習慣に合わせて、畳やベッドが使われている。好みの持ち込みは自由ができるよう家族に働きかけられている。		

※  は、重点項目。